



民生委員・児童委員
のシンボルマーク

のばそう愛の手

戸塚区民生委員児童委員協議会



区の花「桜」

H28.3.22 発行

—大正東・西地区民生委員児童委員協議会合同研修—

福島県浪江町民生委員協議会との交流研修会

10月29日午前浪江町役場二本松事務所近くの施設を訪問、一行35人が浪江町民生委員7名、浪江町社会福祉協議会職員(以下、町社協)2名の方と交流会を行いました。

浪江町は太平洋側(福島県浜通り)に位置し、大部分が福島第一原発事故の影響で帰還困難区域ですが、東部の避難指示解除準備区域で除染作業、生活インフラ整備が進行中です。

東日本大震災・原発事故から4年半が経過しても、浪江町民はいまだ福島県内(7割)を中心に全国で避難生活をしてい

ます。このため、福島県内5か所に浪江町役場出張所があるほか、主要な県の拠点には避難町民サポートのため浪江町復興支援員を配置。神奈川県にも452名の避難町民がおり、藤沢市内に拠点があるそうです。

交流会では大正地区の民生委員児童委員協議会の活動紹介の後、浪江町民生委員の活動状況を田村会長ほかの民生委員、町の復興の歩みを浪江町社協職員からお聞きしました。

浪江町の避難住民は20,969人ですが広い県内避難先を5つのブロックに分け、現在54名の民生委員が活動しています。避難先のうち、仮設住宅には自治会があり町社協・生活支援相談員が訪問しています。また、点在するみなし仮設・借上住宅(アパート)には、主に民生委員が訪問しています。一人暮らし高齢者で家族の間を転々としている場合は留守が多く、なかなか会えない苦労もあるとのこと。

浪江町の復興計画では平成29年3月に東部町域(国道6号沿線)に部分帰還し、ここを復興拠点にして段階的に中・西部へ復興を拡大していく方針となっています。しかし町民意向調査の結果(27年3月)では避難指示解除後の帰還意向では「現時点で戻らないと決めている」が48.4%と最も高く、次いで、「まだ判断がつかない」が24.6%と厳しい状況です。

浪江町の民生委員は、ご自分も避難生活のため定例会開催も大変な上、守秘義務で行政との情報共有が十分でない中で訪問活動を行っています。この活動を通じて「何としても一緒に帰還して復興のスタートラインに立ちたい」との強い思いを感じました。

また、横浜市にも避難住民がお世話になっているので今回各地区の避難先から交流会に参加してくれた浪江町民生委員の方に、人と人のつながりの大切さを思いました。訪問したメンバーは同じ人間として「ずっと忘れないでいる心の絆」を強く自覚した研修会でした。

(地区民児協研修委員：鈴木、添田)



上倉田地区民生委員児童委員協議会の食事サービスと研修について

『食事サービス事業』

上倉田地区は JR 戸塚駅に近いため開発が進み、集合住宅の多い地区です。

- ・新しい住民はマンションに居住する方が多く、若い人も高齢者も友達が少ない
- ・昔からの住民は戸建住宅で一人暮らしになり友達が減っていく

このような特徴を持つ地域の中で地域交流・世代間交流の場としての役割を担っています。民生委員とボランティアがスタッフを勤め、サロン・会食会を毎月 2 回ずつ 2 つの会場で開催しています。

3世代交流サロン

60 歳以上一人暮らし高齢者と未就園児親子が参加する戸塚区内でも数少ない三世代交流のサロンです。軽食と飲み物を提供しており、サロンの時間内は自由に過ごしていただくことができます。参加者同士やボランティアも同席しての会話やゲームを楽しんだり、子どもと高齢者が触れ合う様子もみられます。

年に数回サロンの日に合わせて医療機関のミニ健康講座を開催することで、健康維持の一翼も担っています。

会食会

旬の食材を取り入れた手作りの昼食を一緒にいただいたあと、踊りや音楽の鑑賞、区役所・警察等専門機関の方からの健康や安全のお話等、様々な催しを用意しています。

お友達と連れ立っていらっしゃる参加者も多く、地域の高齢者の交流の場となっています。



『各種研修』

地域に住む様々な方を支援していくために、日ごろの見守りや情報交換に加えて様々な研修会や交流会などを開催しています。今年度は民生委員だけではなく、地区連合会と合同で開催したことにより、より地域に根付いた研修会となったことが特徴として挙げられます。

居宅介護支援者連絡会

地域の高齢者の暮らしを支えるため、地域に関係の深いケアマネジャー・ケアプラザ・民生委員で研修会も兼ねた交流会を持っています。今年は住み慣れた地域で暮らし続けることを「医療」という視点で、病院・訪問看護ステーション・ケアマネジャーからお話いただきました。自治会町内会長も参加いただき、「地域」ということがより意識された意見が交わされ活発な連絡会となりました。



県外研修

地区民生委員児童委員協議会、地区連合町内会が合同で東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」を見学しました。この施設は、防災体験や防災学習を通じて、「災害をイメージする力」と「対応力」を身に付け、災害への備えにつなげることを目的としています。

防災体験ゾーンでは、地震直後 72 時間をどう生き残るか、外出先や自分の住むまちで地震にあったら？という想定での避難を体験。また、再現避難場所ゾーンでは避難所生活を体験し、自助・共助の大切さを学びました。

主任児童委員の活動

戸塚区 PTA 連絡協議会と主任児童委員連絡会との交流会 柏尾地区 飯田裕子

7月17日（金）、戸塚区役所の会議室において「戸塚区 PTA 連絡協議会と主任児童委員連絡会との交流会」が開催されました。当日は戸塚区 PTA 連絡協議会の引間会長をはじめ、戸塚区内および近隣区の小中学校 44 校の PTA 役員に出席いただきました。

主任児童委員と PTA 役員が顔見知りになれるよう、地域ごとに 7 グループに分かれ自由に話し合える場を持ちました。

主任児童委員からは、子育て支援に関するサークルの開催や事業の企画運営、小中学校や行政機関と連携している役割を説明しました。各校の出席者からも身近な話題が次々挙げられました。

「近くに気になるお子さんがいるのですが、どうしたらいいのか今までわかりませんでした」「主任児童委員の存在、役割を今回初めて知りました」という声も聞かれました。

あっという間に時間が過ぎてしまうほど、各グループとも活発な話し合いが持たれ、改めてこの会が有意義なものと感じました。

戸塚区 PTA 連絡協議会との交流会は回を重ねていますが、主任児童委員の存在があまり知られていないのが現状です。この交流会を継続させて、より多くの方に、その存在を知っていただくことは勿論ですが、主任児童委員連絡会浅井代表からも「PTA だよりで主任児童委員の紹介をしてもらえたら良いですね」との提案もあったように、PTA との連携方法を工夫しながら、共に子ども達の支援につなげられたら幸いです。

「最近の中学生の実態」講演会を終えて

川上地区 手塚睦子



9月17日（木）、戸塚区役所の会議室にて、「最近の中学生の実態」について南部児童相談所の岡聰志所長にご講演いただきました。

「現代の中学生も“心”は昔と変わっていないと感じている。周囲の環境が変化しているのに伴い、“行動”が変わってきているのだと思う」という話の流れの中で、今増えている虐待や貧困の問題、少年非行の現状などを、資料を交えてご説明いただきました。

「非行少年は不幸少年である。単に悪いことをしているのではなく、その子自身も何らかの被害者ではないか」という言葉からは、子ども達の行動だけでその良し悪しを判断するのではなく、彼らのおかれている環境に目を向け、状況を理解し、その上で「子ども達の健全な成長を助けるために、大人には何ができるのか」を考え続けていく必要性を強く感じました。

子どもが中学生くらいになると、親も「手が離れた」と心が緩みがちです。しかし「青年は心を離すな」という言葉もあるように、子どもの心の声に耳を傾け、寄り添うことが大切なのだと思います。主任児童委員として、また地域の一住民として、子ども達の笑顔のために何ができるかを考え、少しずつ活動していけたらと思います。

名古屋市港防災センター見学



戸塚区民生委員児童委員協議会の会長、副会長、事務局、戸塚区社会福祉協議会職員の総勢32名が、バスにて11月19日(木)に名古屋市港防災センター(以下、防災センター)を見学しました。

「いつ起きてもおかしくない大地震」と言われながら、これらに対する備えがなかなか進まない中で、今回の防災センター見学は大変、時機を得た研修でした。滅多に体験できない震度7の揺れや、火よりも被害

が甚大と言われる煙の体験もできました。

また、過去の大地震において、死傷者の40～50%が、家具転倒等に起因している事実を再認識しました。

以上のような地震の恐ろしさを実感し、それとともに次のことを学びました。

被害を最小限にとどめるためにできる減災の備えとして、家具の転倒防止、避難路の確保、3日間の食料品と水の備蓄、家族や大切な人と連絡できるように準備する等。更にできれば、電気復旧後の火災を防ぐ通電火災防止装置の設置及び食器棚の飛散防止フィルムの貼付と開閉防止策を行うことが大切であるということです。



私達、民生委員は、日ごろ見守っている高齢者や障害者等の方々の安心と安全を守る為、地域と連携し、様々な取組みを行なっていますが、この防災センターの視察を通して、あらためて民生委員みなで考える良い機会になったと強く感じました。

また、このような研修の場を持たせていただいたことで、日頃なかなかできない、他地区の民生委員との情報交換や親睦もでき、大変有意義な研修となりました。

(川上地区 山本 勇)

編集後記

「泣き声」

近頃子ども達、特に乳幼児の泣き声を余り聞かなくなったように思います。

幼稚園・保育園の子どもは、一人泣くと他の子ども達も泣きます。

乳幼児の泣き声はなんとなく微笑ましく思えます。「泣く子は育つ」と伝えられています。

大きな声で泣く子が増えますように！(廣田 章)

【編集委員】武田 佳子、門井 富士夫、郷原 真理子、林 一郎、廣田 章、
松田 寿子、宮武 祐一

【発行責任者】伊藤 紀子 【事務局】田代 恭一 ☎866-8418